

プロフィール

東京都区市立中学校理科教諭として、理科教育を通じた環境教育を実践。他に視聴覚教育や国際理解教育にも関わる。区市立中学校 4 校、サンパウロ日本人学校に勤務。中学校教頭を 2 校経験後、多摩市立小学校校長として 2 校に勤務、現在に至る。全国及び東京都小中学校環境教育研究会研究部長の後会長となった。

全国小中学校環境教育研究会は、昭和 42 年に公害教育研究会として発足し今年で 45 年目となる。全国の小中学校に勤務する教職員による、環境教育の研究団体である。毎年全国大会を開催し、環境教育の充実と普及を図っている。主たる研究テーマを「持続可能な社会づくりのための環境教育の推進」とし、環境教育によって育む学力と環境保全意欲について研究活動を行っている。

ESD と環境教育の将来について

ESD は 1970 年代のベオグラード憲章から 30 年が経ち、持続可能な社会づくりのための教育の目的として示された。現在、国際化、情報化、多様な価値観、民族間対立などが急激に進むのと同時に、環境問題も地球全体で深刻な状況となりはじめている。特に、この環境問題への取り組みは持続可能な社会づくりのキーである以上、環境教育抜きで持続可能な社会を語ることや ESD を指導することはできないと考えている。環境教育として ESD に取り組むときの目的は、持続可能な社会づくりのために①問題解決を図る能力の向上。②環境保全意欲の向上の二点にまとめることができる。能力＝学力の向上という目的は、ESD が環境教育にとって転換点となったのではないだろうか。

ESD として環境教育を実践し、児童・生徒が主体的に問題をとらえて、工夫して問題解決を図り、まとめて発信するという一連の学びから、問題解決力の向上を図ることが、将来の環境問題に関わる人材を育成することにつながると考える。そのためには、指導の質的な転換を必要とする。教師自身が教え込むことと主体的に取り組ませることを明確に分けて指導し、問題解決学習を充実させることを意味する。教員の指導力の転換と向上は必須である。

教育が持続可能な社会づくりの基盤であることは確かである。ESD として実践する環境教育によって、環境保全の意欲と問題解決能力の両面を育てる指導を、多くの学校で実践することが、持続可能な社会づくりに教育が資することではないだろうか。

学校全体で取り組むためには、発達段階に応じた生活科や総合的な学習の時間の指導内容が、物語のように学年を縦断する連続した学びとなっていることと、学校全体で生活科や総合的な学習の時間を計画することが必要である。

ESD としての環境教育指導事例

多摩第一小学校では、校内や周辺の自然環境を活かした取組を中心に、全校で環境教育を指導している。6年間の環境の学びによって、自然との調和をはじめ、生命尊重や循環、多様性等について体験を通して学びを深めることができるよう計画した。ESD としての環境教育を充実させるために、指導方法は問題解決の力が高まるよう課題発見・予想と計画・調査・まとめ・発信を毎年くりかえして指導し、Web 会議による交流も行っている。また、指導内容は、発達段階に応じて身近な自然体験から、地域、国内、世界へと視点を広げるよう指導した。

第1学年 あそんでふれて、しぜんはっけん

生活科で自然体験遊びやネイチャーゲームによって、自然と関わらせ、豊富な自然体験によって、身近な自然環境への関心をもたせる。草笛、ササ舟といった昔遊びに加えて、ビンゴゲーム形式の自然発見ゲームや虫めがねを使って草むらの根元を探検するなど、多様な体験をさせる。サツマイモの栽培を通して、土づくりや栽培体験も行う。



【草むらの下の探検】

第2学年 わくわく自然体験

生活科の時間にネイチャーゲームによる豊かな自然体験とともに、多摩川探検を通して身近な地域学習への関心を高める。浅瀬のガサガサ体験でハヤやカワエビなどの小動物を採集したり、野草の押花を楽しんだりする。川の水に浮んで流れる体験もする。

子供の感想：川の水は冷たかったけれど、こんなにたくさん生き物がいると思わなかった。川エビ、ドジョウやカメもいた。はじめて川に入って楽しかった。



【川に入って自然探検】

第3学年 地域の達人になろう

総合的な学習の時間に、地域の自然、商店、公共施設、農業の見学や調査を行い、地図上にまとめて発表を行う。農家や商店を訪ねてインタビューによる調査方法を体験したり、デジカメを使った記録方法や、ポスターセッションによる発表を行うことで、調査方法や発表方法の基礎を学ぶ。また、和太鼓を打つ体験や、地域に伝わるお囃子を実際に踊る体験することを通して地域理解を深め、「地域の達人」をめざす。



【農家の方から話を聞く】

第4学年 めざせ川の博士

総合的な学習の時間に、川をテーマに調査を行った。

まず、川の調べ方を外部講師に教えてもらうために、川と河原の植物、魚、石、野鳥、ゴミ、水質のテーマごとに話を聞き、水質調査などの体験活動を行った次に、テーマごとのグループで調査結果の予想、調査方法を話し合い、計画書にまとめた上で、実地調査を行い、結果をまとめた。さらに、学年内で発表会の後に、インターネットのテレビ会議を活用して、上・中・下流の学校で、学んだことや川の様子などを交

流で発表し合った。最後に活動をふり返り、活動の良かった所や改善点を出し合った。

子供の感想：身近な川の様子がよくわかった。生き物が多かったけれど、意外とゴミが多かった。調べたことを、発表方法を工夫して発信するのが楽しかった。



【河原の石の調査】

第5学年 みつめよう私たちの生活と環境

総合的な学習の時間に、地域の農家の方に指導していただき、校内の田んぼでの稲作体験をする。田植えから除草、稲刈り、脱穀などを手作業で行い、米を作る楽しさとともに作業の体験する。収穫した米は、6カ国の留学生から世界の米料理を教えてもらい、食を通して国際理解を図り、6年生の学習につなげる。また、米や稲作をキーワードに他校に発信した。発信の工夫は4年生の経験を生かし、子供が発信内容を工夫する。今年度はユネスコスクールの連絡網を活用して東南アジアの小学校と交流する計画である。



【学校田んぼで稲刈り体験】

第6学年 エネルギーを通して世界を知ろう

理科の電気や発電の学習をきっかけに、総合的な学習の時間に、エネルギーについて学ぶ。様々な発電方法を調べて発表し、実際に生活や社会を支えている発電について関心をもつ。次に、風力発電機を自作することで、発電の大変さや大規模な施設が必要なことを理解し、生活の中で節電することの大切さを知る。さらに、自然エネルギーを身近に感じさせ、日本や世界のエネルギー問題の未来を考える。今年度は、スウェーデンの小学校との交流でエネルギー



【羽根を工夫した風力発電】

子供の感想：風力発電用にペットボトルの羽根の形を工夫した。これからもエネルギー問題に関心をもちたい。